

トヨタカローラ  
山形の本社

# 40兆の太陽光発電稼働

県内企業  
最大規模

## 使用量の1/3賄う

トヨタカローラ山形（山形市、鈴木重行社長）は全社的に取り組んでいる環境保全活動の一環で、同市南一番町の本社社屋に県内企業では最大規模となる四十兆の太陽光発電システムを設置、稼働を始めた。ショールームや事務所などでの消費電力の一部をまかない、余剰電力は東北電力へ売電していく。

経済産業省の外郭団体「新エネルギー財団」が展開する太陽光発電フィールド研究事業に採択され、総工費三千四百万円

トヨタカローラ山形は本社屋上に県内企業で最大規模の太陽光発電システムを設置した

山形市南一番町

の半額の助成を受けた。本社屋上に一枚一・一六平方メートルの発電パネルを二百十六枚設置。本社事務所のほかショールーム、整備工場など周辺施設で使う電力の三分の一度を発電する。休日の方は売電（年間約四十六万円相当）する。

同財団との共同研究と

して来年度から五年間は実績データの分析などを行い、店舗内のテレビモニターでは発電状況を表示し、来店者に対し省エネについての啓発も行う。

同社は、タイヤの空気圧を適正化して低燃費につなげるサービスなど、さまざまな環境保全活動を展開。今後は新店舗な

ども太陽光発電を行うことにしている。